

注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【タイトル】

めだか箱はチートじゃなかった

【作者名】

ハロルド

【あらすじ】

めだかボックス詰め合わせ（めだか、球磨川、なじみ、半纏、言彦を除く）を得た転生者が勘違いされる話

だといいいね！

プロローグ

――その男は謎に包まれている。

伝説の吸血鬼は語る。

「奴の事か。そうだな、あれの實力はチートだバグだと言いたくなるレベルだな。中々に抜目ない所もあり、油断も隙もない。紅き翼と比較しても遜色ないだろうよ」

――その男は途方もない實力を秘めている。

極東の魔法使いは語る。

「彼かの？ ふむう、悪い人物ではない……と思うぞい。いまいち掴み所がないから一概には言えぬがの。まあ、木乃香の命の恩人じゃ。信頼はしておるよ」

――その男は一つ所に定まる事がない。

三番目の人形は語る。

「ああ彼かい。友人、と語っているよ。調や栞も彼に懐いているようだし、出来る事なら仲間に取り入れたいものさ。實力だって僕達に劣

らないものだと思うしね」

――その男は――

「やべえよ……フラグがどんどん建っていくよ……めだかボックス詰め合わせ（球磨川、めだか、半纏、なじみ、言彦を除く）じゃあ心許がなすぎるよ……」

――ただのヘタレ転生者だ。